

長野県 公連協だより

第152号

発行所
長野県公民館運営協議会
長野市若里1-1-4
県立長野図書館内
電話(026)217-6256
FAX(026)217-7015



は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で開催が危ぶまれています。

南信地区公民館運営協議会会長
富士見町公民館長 北村享一

令和四年度 公民館報関係者研修会

バーサルデザインについて、プロジエクターを使っての視覚的なご説明をいただきました。昼食後の分科会では、「初めてのインターネット活用」「流行りのあれこれを使って」、「読みやすい広報記事の書き方」「興味をもつて読んでもらえる館報づくり」「紙面を彩る写真撮影」の四テーマに分かれて公民館報づくりの手法について各自が学び合うことが

最後になりますが、会場準備等にご尽力いただいた下伊那郡町村地区公民館の皆様に、この場を借りて感謝を申し上げます。

今年度の公民館報関係者研修会は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で開催が危ぶまれています。したが、県内の感染警戒レベルが落ち着いたことで、六月二十五日に松川町中央公民館において開催することができました。

開会式では開催地を代表し松川町教育長 小平順一氏と長野県南信教育事務所長 西村政春氏からご祝辞を頂戴しました。

開会式終了後の講演では、中央印刷株式会社岡谷営業部課長 三浦新也氏による「読者視点に立った紙面づくり～ユニバーサルデザインと広報活動のトレンド～」と題して、若者世代からシニア世代に向けての紙面づくりについて、読者の視点に立って作ることと、そのための様々なアプローチ方法や実例についてご紹介いただくとともに、紙面を飾る字体等のユニ

「長野県公連協だより」 第百五十二号 の発行にあたり、受講した坂城町公民館主事 田中秀紀

となりました。

以前も公民館主事ではありますたが、主担当の主事がおり、私は担当業務との兼務でしたので、公民館事業については無知な部分が多く、主担当に近いポジションに異動となり、困惑したのが正直なところでしたが、支援講座があることを知り、オンライン開催ということで、開催目的にある短時間で気軽に参加できるという利点に魅力を感じました。

（オンライン研修）を受講して



「長野県公連協だより」

第百五十二号

の発行にあた

り、受講した

坂城町公民館主事

田中秀紀

となりました。

以前も公民館主事ではありますたが、主担当の主事がおり、私は担当業務との兼務でしたので、公民館事業については無知な部分が多く、主担当に近いポジションに異動となり、困惑したのが正直なところでしたが、支援講座があることを知り、オンライン開催といふことで、開催目的にある短時間で気軽に参加できるという利点に魅力を感じました。

実際に六月の第一回の研修は、「公民館新任職員研修」として県公連協アドバイザーの筒井先生から長野県の公民館のあゆみからはじまり、これまでの活動について、また公民館主事としての考え方を学び、後半は参加者皆さんとのオンライン上での意見交換があり、多くの参加者からお話を聞くことができ、むしろオンラインの方が深い意見交換ができるのではないかと思うほどでした。

東北学院大学の原先生を講師に迎えた第二回の「公民館に集う」の研修では、オンラインのメリットである遠方から講師を移動なくお招きでき、貴重なお話を拝聴できる機会であると感じました。後半は、県公連協副会長の原澤東御市中央公民館長の進行のもと、オンライン上でグループ別の情報交換の時間を設けていただき、私が参加したグループでは、「気軽に集える・来館しやすい公民館づくり」について情報交換を行い、少人数のグループだからこそその深いお話を聞くことができ、オンラインの状況であるはずが、他の公民館職員の方たちとの距離が縮まつたと感じる研修でした。

研修というと自己研鑽のためとはいえ、必ずしも前向きな受講とならない至らぬ私ですが、「支援講座」と銘打っていただくことでハードルが低くなり、またリモートだからこそできる情報交換に参加意欲が増しています。

今後予定されている支援講座にも、ぜひ参加し、公民館主事としてより多くのことを知ることができます。さればと考えています。

今後予定されている支援講座にも、ぜひ参加し、公民館主事としてより多くのことを知ることができます。さればと考えています。

中世時代では、人間の生活に必要な「火・水・木・金・土」に、昼と夜の「太陽・月」と全体を取り巻く「空間」で成り立っていると考えられていました。

「火」生活に必要な火は、暖房、料理、鉄を加工する火

「水」生活に必要な水は、飲物、料理、火を消す。生命を潤す

「木」生活に必要な木は、家、暖房、鉄を加工する薪、農具（道具）

「金」生活に必要な金は、鉄を加工（鍊金術）、農具（道具）

「土」生活に必要な土は、生命を耕す。大地からの恵み
食料（食べ物）

「日」空間に必要な日は、太陽のエネルギーで、生命の営み



3年ぶりに開催した文化講演会

「月」空間に必要な月は、月の風水に興味のある方は、家のインテリア環境に一生懸命取り組んでいる方がいるかもしれません。ここでは生涯学習の場として、七つの要素の結び付けを含ませた空間（環境）づくりで、感受性豊かな講座づくりを目標として取り組むところです。

「ちなみに今取り組むべきものとして、（失いかけているもの）

- ・ 地域の歴史
- ・ 最後に、公民館活動は、何でも取り組むことができますと言われていますが、今注目している「SDGs」に結びつくよう、新たな楽しい生涯学習の場を求めていきます。

県教委より

「新たな時代に求められる

公民館活動

(長野県教育委員会から)

十月十二日、令和三年度から四回の審議を経て作成された、長野県生涯学習審議会の提言書が県教育委員会の教育長に手渡されました。

第四次長野県教育振興基本計画の策定に向け、概ね二〇三五年を展望する中・長期的な視点に立つた今後五年間における本県の生涯学習、社会教育振興の基本的な方

向性についてまとめられたもので

いては、異なる背景を持つ多様な人同士が共に知恵を出し合い、対話を探り返して学び合い、それぞれの地域の特性に応じた解決策を見出していくことが必要であると指摘した上で、公民館には地域住民に寄り添い、コミュニケーションの課題解決力を引き出すコーディネーターを育成する役割が期待されるとしています。

『信』頼を紡ぐ。一人ひとりが活きる持続可能な地域社会」の三つの施策展開の視点が示されました。また、急激な人口減少により担い手が不足し、簡単には解決できない課題にあふれる地域社会にお

県教育委員会の文化財・生涯学習課のホームページに提言書を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

(文化財・生涯学習課
指導主事 楠 武明)

ものです。



ブロックニュース 南信

地域と高校生が協働する

「地域人教育」の取組

♪天龍峡桜街道

イルミネーション♪

主事 山口真奈

龍江公民館では、今年二月に飯田OIDE長姫高校商業科三年生

と地元有志の皆さんと協力し、天

龍江公民館へイルミネーションの設置を行いました。

これは、飯田OIDE長姫高校の「地域人教育」の授業で、龍江地区をフィールドに活動をしていました。高校生より提案を受け実現した

地域人教育は、「地域を愛し、理解して、地域に貢献する人材」を育成する教育プログラムとして、飯田OIDE長姫高校、松本大学、飯田市がパートナーシップ協定を締結し、高校商業科の授業実践の中で地域人の育成を図るものとして実施しており、地域と高校生を結ぶパイプ役として公民館が関わっています。

「龍江に笑顔を咲かせるプロジェクト」と題した高校生の計画は、

コロナ禍でもできるイベント案として、桜街道の管理保全を行う天龍峡桜街道さくら並木愛護会の皆さんに高校生から提案がされました。最初は不安そうに話を聴いていた愛護会の皆さんでしたが、打ち合わせを重ねるうちに「一年間お世話になつた地域の皆さんに恩返しをしたい」、「イルミネーションを通じて龍江の皆さんに笑顔を咲かせたい、地域を盛り上げたい」という高校生の想いを受けとめ、「龍江地区や天龍峡の新たな『冬の魅力』として、高校生の提案を形にしたい」と言ってください、愛護会と高校生で組織するプロジェクトが結成されました。

今回は初回ということもあり、全ての木へ点灯することは叶いませんでしたが、二月二十五日に点灯式を行い、全長二kmのうち約二百mの冬の桜街道に満開の桜を咲かせることができました。

からは、「最初はできると思っていましたが、高校生が一緒に考えてくれたから成功できた」「高校生が龍江のことを真剣に考えてくれたのを知って協力したいと思つた」、「大人では気づけない目線で、

多くの魅力と課題を見つけてくれた、大人としてそれに応えられるようにならう」という声があり、高校生との活動は地域の大人にとって「半教半学」、「相互学習」の機会として大切な機会だと改めて実感しました。

今年度も愛護会の皆さんのが高校生の想いを引き継ぎ、年明け一月十五日から距離を延ばしてイルミネーションを実施します。飯田に足を運ぶ機会がありましたら、是非冬の桜を観にお出かけください♪

多くの魅力と課題を見つけてくれた、大人としてそれに応えられるようにならう」という声があり、高校生との活動は地域の大人にとって「半教半学」、「相互学習」の機会として大切な機会だと改めて実感しました。

公民館の仕事は、多岐にわたり、普段の公民館講座・文化祭・コンサートなど、様々な行事に日々追われ、一年があつという間でした。

公民館の仕事は、多岐にわたり、普段の公民館講座・文化祭・コンサートなど、様々な行事に日々追われ、一年があつという間でした。

出身は京都府で、京都で暮らしていた頃は、地域の公民館の存在を気にしたことすらなく、就職して初めて公民館というものに触りました。

小谷村公民館
主事 丸山 亮

一年目の公民館主事

ここに生きる



今年度も愛護会の皆さんのが高校生の想いを引き継ぎ、年明け一月十五日から距離を延ばしてイルミネーションを実施します。飯田に足を運ぶ機会がありましたら、是非冬の桜を観にお出かけください♪

長野県の東部に位置する小諸市を含む佐久地域は、星空の美しいところです。JAXAの宇宙飛行士 油井亀美也さんも幼い頃、佐久の地からの星空を眺め、宇宙への思いを膨らませたそうです。そ

の油井さんをお招きしての「夢をはぐくむ講演会」を七月一日（土）に小諸市文化会館にて開催しました。JAXAの青いつなぎに身を

包んだ油井さんが、宇宙飛行士を

講演を通して、今まで知らなかつた世界に触れただけでなく、油井さんのお人柄も感じることの経験は、私たちの心に暖かく残り、夢をはぐくむ上での力となってくれることでしょう。

来年から、また新たな『館報おたり』を皆さんに読んでいただけますよう、毎月苦しみながら作つて初めで公民館というものに触れました。

来年から、また新たな『館報おたり』を皆さんに読んでいただけますよう、毎月苦しみながら作つて初めで公民館というものに触れました。

公民館唯一の広報物なので、ミスも出来ず、細心の注意をはらいながら…と言いたいところですがなかなか思うようにもいかず、毎月苦戦しながらネタを考え、執筆もして、非常に手強い仕事です。

そんな『館報おたり』ですが、就職一年目で、今年から小谷村公民館主事を務める丸山と申します。

